



【イエスキリストを迎える人の姿勢① -ヨセフ-】

聖書本文: マタイの福音書1章18-25節/暗唱聖句: イザヤ書9:6節

説教者: ^{ジョンナムチョル}鄭南哲 牧師
(Rev. Jung nam-chul)

地上全ての主の教会はクリスマスまでの四週間をアドベントだと呼ばれ、我々の為に来られた救い主イエス様を覚え感謝を持って待ち望む時期となります。実はアドベントという言葉には過去・現在・未来への深い意味が含まれています。アドベント(Advent)は‘来る’‘到着’を意味するラテン語‘adventus’から由来した言葉です。これは2023年前、実際この世に救い主としてイエスキリストがお生まれになり、実際来られた御誕を祝う意味です。そして、一度‘来られた’神の御子救い主イエスキリストが将来再び来られると言う再臨(マタイ24:36)の聖書の御約束通りに必ず‘再び来られる’主を待ち望む時の意味もアドベントには含まれています。その為、アドベントは再び来られる主を待ち望む時として、待降節(たいこうせつ)、待臨節(たいりんせつ)、降臨節(こうりんせつ)だとも呼ばれています。そしてアドベントには現在の意味も含まれています。つまり、2023年前だけではなく、‘今現在にも信じる全ての人々に来られ共におられる’イエス・キリストの意味も含まれているのです。今もイエス・キリストを受け入れ信じる全ての人々のうちに来られ、いつも共におられる「インマヌエル(我らと共にいる神)」という意味も含まれているのです。今年も今日から始まり、クリスマスの主日までアドベント4週間!今も我らと共にいるインマヌエルの主イエスキリストに感謝と賛美を捧げ、主の御言葉と祈りを持って日々交わり、再び来られる主を共に待ち望みましょう!

我々はいまキリストの降誕の季節を迎えて、主の御言葉を黙想し続けています。普段クリスマスの時期になると、イエスキリストを迎えたマリア、東方の博士たちなどによく注目しますが、ヨセフにはわりと関心を持ちません。

御使いはマリアにだけでなく、ヨセフにもイエスキリストの誕生を予告しました!

今日の本文は御使いがヨセフに現れてメシヤの誕生を知らせる場面が記録されています。今日はマリアの夫であり、イエス様の肉親の父であったヨセフはどうやって、イエスキリストを迎えたのか、そして、ヨセフの姿勢を通して、学ばされる主の降誕への我々の持つべき姿勢をともに考えてみたいと思います。

<1.ヨセフのなやみ>

実は、ヨセフにとってキリストの誕生は言葉では言い表せないほど、苦しい出来事だったと思います。なぜならば、いままで一度も性的な関係を持たなかった、結婚を決めて婚約していた女が突然みごもったという衝撃的知らせを聞いたからです。ユダヤ人たちはこの婚約に該当する言葉を【キドウーシン】と言います。これは婚約と言う言葉よりすでに結婚を定めた関係だという言葉がもっと近かったのです。当時、婚約が成立されると、結婚式をあげなくてもすでに相手を夫や、妻として呼ぶことができました。それが当時、イスラエルの慣習でした。彼らは【フパ】と呼ばれる婚礼式だけ残しただけで、すでに結婚した人と同じぐらいの関係でした。

本文を注意深く読んでみると、聖書は結婚を定めていた状態のヨセフとマリアに夫、もしくは妻という言葉を使っていることが分かります。本文の19節をみてください。“夫のヨセフは…”ヨセフを夫として描写していること、これはその当時、イスラエルの社会的慣習として正しかったのです。

ところが、マリアがみごもったという知らせはヨセフにとって衝撃的な出来事であり、あまりにも悩ませニュースだったのではないのでしょうか。

‘まだ夫婦関係も持ってなかったのに、もうすぐその時を一番望んで楽しみにしていたヨセフだったけれども、すでにみごもったなんてこの不貞(ふてい)な女と結婚をすべきなのか。’という思いと‘それでも彼女は今もぼくが愛している妻なる女ではないのか。’という思いが彼を悩ませたのです。もし、ヨセフがマリアの不貞を口実(こうじつ)に彼女との結婚を断るなら、マリアにはとても恥をかかせることだけではなく、当時、ユダヤの慣習によると、それはマリアに死を意味する宣言だとも言えます。

旧約の申命記22章22~24節(上)を見て見ましょう。「夫のある女と寝ている男が見つかった場合は、その女と寝ていた男もその女も、二人とも死ななければならない。こうして、あなたはイスラエルの中からその悪い者を除き去りなさい。ある男と婚約中の処女の娘がいて、ほかの男が町で彼女を見かけて一緒に寝た場合、あなたがたはその二人をその町の門のところに連れ出し、石を投げて殺さなければならない。…」

ヨセフがマリアとの公に結婚を拒むことになる、マリアにとっては死を宣告させる意味にもなったので、さらにヨセフは悩まされたでしょう。このような悩みの中で、彼がとった行動をとおして、我々は彼がどんな人だったのか知ることができます。

<2.ヨセフの人格>

今日聖書の本文にはこのようなヨセフの人格が見られます。

①ヨセフは正しい人(ギリシャ語:ディカイオス:正直・正しい; just, righteous)でした。

「夫のヨセフは正しい人で、マリアをさらし者にしなかったので、ひそかに離縁しようと思った。」(19節)

ヨセフは心から神を愛し、神の律法と御言葉を敬虔に守り従っていた人であり、不正を赦さないとても道徳的、倫理的に正しい人であったことが分かります。たからこそ、婚約中、まだ夫婦関係を持ってなかった妻となるマリアがみごもったということはヨセフ自身にとっては到底赦せなかった出来事でしょう。なので、ヨセフは当然婚約したことを破り、離縁しようと思うのは当然だったと思います。神と神の御言葉を愛し敬虔に従っていた人で、道徳的に不正を許せない正直で、真面目な人だったからこそ、しばらくマリアへの感情的に裏切られたという怒り、自分の幸せなすべての夢が打ち壊れてしまったという深い失望と悲しみ、マリアに身ごもらせた男はいったいだれなのか、今までの隠されていたマリアと男の正体を明らかにさせ、恥をかかせたいという恨みと仕返ししたいなどとても複雑な心境だったのではないのでしょうか。

ところが、19節ではヨセフはこう反応していると記録されています。

「マリアをさらし者にしたくなかったので、ひそかに離縁しようと思った。」(19節)

ヨセフは到底自分ではゆるせない人と状況においても、マリアをさらし者にしたくなかったので、ひそかに関係を整理しようと思いました！それは、最後まで自分より、愛する人への配慮と愛する人を守ろうとするためであります。

いくら過ちを犯し、罪を犯して、自分を傷つけさせた人であっても、彼女を最後までマリアを深く愛し、のろいや死が当たらないように守ろうとしていた姿勢と反応であることが分かります。

ここで、マリアに対するヨセフの愛と赦し、彼の成熟した人格を見出すことができます。

私も含め我々は自分を傷つけたり、自分を苦しめたり、裏切る人に対して、すぐ感情的に反応し、怒りを表し、その分、いやもっと倍に仕返ししたがる傾向があります。しかし、自分には深い傷になり、裏切られたような悲しみの中でもマリアを守り、赦したがついていたヨセフの姿から、彼の人格と信仰がどのぐらいだったのか十分分かることができます。

ヨセフはすくなくとも以下の御言葉を守り、従おうとしていた神の前で正しい人だったのが分かります。

「もし人の過ちを赦すなら、あなたがたの天の父もあなたがたを赦してください。しかし、人を赦さないなら、あなたがたの父もあなたがたの過ちをお赦しになりません。」(マタイの福音書6: 14-15)

ルカの福音書6章37節「さばいてはいけません。そうすれば、あなたがたもさばかれません。人を不義に定めてはいけません。そうすれば、あなたがたも不義に定められません。赦しなさい。そうすれば、あなたがたも赦されます。」

「あなたがたもそれぞれ自分の兄弟を心から赦さないなら、わたしの天の父もあなたがたに、このようになさるのです。」(マタイの福音書18章35節)

マルコの福音書11章25節「また、祈るために立ち上がるとき、だれかに対し恨んでいることがあるなら、赦しなさい。そうすれば、天におられるあなたがたの父も、あなたがたの過ちを赦してください。」

イエス様は日々こう祈るように教えて下さいました。

ルカの福音書11章4節「私たちの罪をお赦しください。私たちも私たちに負い目のある者をみな赦します。私たちを試みに会わせないでください。」

*ヨセフはこの地に来られるイエスキリストを迎える前に、すくなくとも上の御言葉に従おうとしていた正しい信仰の姿勢と生き方を神と人の前で堅持し、保っていた人であったことが分かります。

降誕を迎えて我らはどういう心構えでいるのでしょうか。今年1年間を振り返ってみませんか。

今もみなさんの心の中にだれかに対する赦せない恨みや、憎しみ、怒りはありませんか。キリストの降誕を迎えながら、彼らを心から赦し、彼らのためにむしろ祈る心を持っていませんか。みなさんがほかの人に配慮するほど、ほかの人を赦すほどみなさんも神様に配慮され、赦されることを覚えて下さい。

差別なく、区別なく愛するとき神様にそれ以上愛されるということを忘れないでください。

②ヨセフは愛を実践する人でした。

たとえ、ヨセフがマリアをさらし者にさせたとしても回りのだれもヨセフを非難しなかったと思います。そして、多く同情してもらうことも出来たでしょう。しかし、もし、ヨセフがそうしたなら、神様の人としての証にはならなかったと思います。義のない愛はただ感情的であり、盲目的にすぎないと思います。もちろん、愛のない正義は神様の喜ばれる義ではないことを覚える必要があります。何が正しいのか、間違いなのか、だれが正しいのか、否(いな)かを問われる前に、いつもこれが神様に喜ばされることなのか、神の愛の動機でやろうとすることなのか、みんなに徳となることなのか、まず我々も考えながら行動すべきではないかと思います。

聖書にはヨセフが愛のある人だったとは直接書かれていませんが、婚約者マリアに対する怒りと失望によるさばきの代わりに、ひそかに彼女との関係を整理してあげることにより、最後までマリアを守ってあげようとしているヨセフは愛を知り、実際行っている姿を見ます。

マリアに起こった出来事によって、大きなショックを受けて悩んでいるヨセフでしたが、最後まで自分より、マリアを考えて、マリアが守られるベストの選択をします。きっと彼は人を愛することを知っている人だと思います。最後まで自分より、相手を考え、相手の為に自分が受ける損を覚悟し、勇気を出せる人だったのではないのでしょうか。

年末になると、ばたばたしながら、心騒がしく、少しも自分にいやな言葉や不親切な行いをすると、すぐ敏感になりやすく、攻撃的になり、非難し、裁こうとする我らの姿はないでしょうか。
イエスキリストの降誕を迎えるこの季節に我々にもこのような愛の心を実践しているでしょうか。愛は、心だけではなく、実践し、勇気を持って表すものでありますね！

このアドベント4週間、クリスマスを迎え前に、人を偏見なく、差別なく愛するとき、みなさんも**神様にそれ以上愛されることを忘れないでください。**神の御子であられるイエス・キリストが人間の体を持って来られた唯一の理由は私とみなさんを愛するがゆえでした！人であり、過ち多く、罪深い我らを愛された為、神が人の形を持って我らをところに来られたのがクリスマスです。
「(ヨハネ3:16)神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」**アーメン**でしょうか。**アーメン！**そうであると信じます！！

人となられ、来られた救い主イエス様は、わたしを愛すると言いながら目に見えている兄弟を愛せない人を聖書は偽りの人だと言っています。もし目に見える兄弟、姉妹に慈しみ深くない、思いやりのないまま、この降誕に信じない人々に神様の愛を分かち合おうとすること自体は順序が違う気がしませんか。

愛するみなさん!みんな覚えましょう。
「(第一ヨハネの手紙第4章20-21節)神を愛すると言いながら兄弟を憎んでいるなら、その人は偽り者です。目に見える兄弟を愛していない者に、目に見えない神を愛することはできません。神を愛する者は兄弟をも愛すべきです。私たちはこの命令を 神から受けています。」

<3. ヨセフを通して救いの御業を供えさせる神様>

その時、ヨセフに主の御使いが現れます。**本文20、21節**を読んでみましょう。
御使いはヨセフに“**ダビデの子ヨセフ**”と呼びかけます。
旧約聖書を見ると、メシヤがダビデの子孫から現れると预言されています。
旧約聖書の预言の通り、イスラエルの民が期待していた通りに、メシヤはダビデの子孫から来られたという歴史的な事実(マタイ1章1節「**アブラハムの子、ダビデの子、イエス・キリストの系図。**」)を伝えるための背景としてマタイの福音書1章は预言の通り、ダビデの子孫の中からイエスキリストが来られたことを立証(りっしょう)しています。

なぜ神様はこのヨセフをダビデの肉親の父として選んだのでしょうか。**このヨセフがダビデの子孫だったから**です。しかし、当時ヨセフはイスラエルがローマの支配の中没落(ぼつらく)したダビデ王の子孫だと言えます。実際、当時ヨセフはとっても**平凡な庶民**に過ぎませんでした。
そんなヨセフを御使いが“ダビデの子ヨセフ”と呼んだのはとっても大切な意味が含まれています。つまり、人々は特にヨセフがダビデの子孫なのか、どうかに興味はありませんが、**神様は御自分が旧約時代から約束されたことを覚えておられました。**そして、時が満ちた時、ついにヨセフをとおしてこの救いの御業を始められたのです。
人々は神様の約束を忘れても、神様の約束は神様の時に、神様の方法でかならず、実現させていかれるお方！
そんな神様の熱心によって、ヨセフが選ばれ、イエスキリストがこの地に来られたことを覚える必要があります。

イエスキリストがお生まれるの759年前、イザヤ預言者を通して、イエスキリストのメシアのご誕についてこう预言されました。**イザヤ書9章6-7節**を読んで見ましょう。
「**ひとりのみどりごが、私たちのために生まれる。ひとりの男の子が私たちに与えられる。主権はその肩にあり、その名は「不思議な助言者、力ある神永遠の父、平和の君」と呼ばれる。7その主権は増し加わり、その平和は限りなく、ダビデの王座に就いて、その王国を治め、さばきと正義によってこれを 堅く立て、これを支える。今よりとこしえまで。万軍の主の熱心がこれを成し遂げる。**」

本文20節に主の御使いはヨセフにマリヤがみごもったのは人によるのではなく、**「聖霊によるのです」**と伝えます。聖書の原語を見ると、“**聖霊による**”という単語が強調的な意味で使われています。つまり、**これは超自然的な神様の特別な御業による実現であることを強調するためです。**これらのすべては偶然起こったのではなく、**神様がすでにイエス様が生まれる700年前(B.C.759年)、旧約時代のイザヤ預言者を通して聖書に記録されている神様の約束の御言葉を成し遂げるためだったのです。(22-23節)**

***イザヤ書7章14節**「それゆえ、主は自ら、あなたがたに一つのしるしを与えられる。見よ、処女が身ごもっている。そして男の子を産み、その名をインマヌエルと呼ぶ。」

<4. メシヤ、彼はだれなのか？イエス・インマヌエル>

ついに、旧約時代から预言されていたメシヤなるイエスキリストがヨセフとマリヤを通して来られました。メシアとはどなただと聖書は言っていますか。**21節**によると、「マリヤは男の子を産みます。その名を**イエス**とつけ

なさい。この方がご自分の民をその罪からお救いになるのです。」

イエスという名前から我々はその方の役割を知ることができます。イエスという名前の意味は“罪の中からご自分の民を救ってくださる”という意味です。

実際歴史上みどりごイエス様にだけ“イエス”と名づけられたものではありません。すでに旧約時代からイエスという名前を持っていた人がとても多くいました。代表的に「ヨシュア」という名前は発音がすこし違うだけで、イエスという言葉と同じ意味を持っていました。イエス様の時代にも当然イエスという名前をもっていた人々も多くいた可能性があります。いったいなぜイエスという名前が多くあったのでしょうか。それはメシアを待ち望んでいた人々たちがたくさんいたからです。しかし、人々があれほど待ち望んでいた主人公メシア！救い主がついに来られたのです。その前も、イエスという名前を持っていた人々がたくさんいましたが、彼らも救いに対して待ち望んでいたイエスたちであって、やがてこの神の御子イエス・キリストが実際罪から人類を救う救い主として来られたのです。

そして来られたイエスキリストを**インマヌエル**と言いました(23節)。インマヌエルの意味は神様が罪人である我々とともにおられるという意味です。旧約時代、聖幕におられた神様、宮におられた神様がこれからはいつも、いつまでも我々とともにおられるということです。“イエスキリストの受肉(じゅにく)”つまり、神様が御自分の神聖と栄光をもってこの地に人間の姿でこられたこと。これは人間の知識と哲学と科学と理性では理解しきれない不思議な奇跡であり、神秘であります。

全宇宙、全人類を創造されたその神様が人間の姿で来られました。この出来事は全人類に一番画期的であり、一番偉大な神の光栄の現しの出来事に間違いありません。歴史家たちはイエスキリストの誕生を境(さかい)に、BCとADを分けました。これがまさにインマヌエルの出来事の事実を証明するのです。

<5. ヨセフの応答と従順>

御使いからこのメッセージをいただいたヨセフはどのように応答しましたか。

24節で彼は主の御使いの命じられたとおりに従いました。マリアを迎え入れました。神様のおことばに、神様のメッセージに従うことによって答えたのです。もちろん、ヨセフの従順もマリアと同じように、いろんな苦しみをも伴ったと思います。しかし、どんな苦しみがあってももはやヨセフはすべてを乗り越える準備が来ています。

なぜなら、ヨセフは神様のお言葉をいただいたからです。ヨセフは聖霊によってみごもったマリアとイエス様がお生まれになるまで一緒に寝ることはありませんでした。神様がなされるくすしい御業が完全に全うされるように彼は忍耐し、待ち望んでいたからです。神様の人ヨセフはどうしても理解できない状況や問題よりも、神様の御言葉に従うことを人生の優先順位を立てて置いた人でした。

今日我々ももう一度改めて従う事によって降誕を備えた姿、降誕を迎える我々の姿となるようにお祈りします。“インマヌエルのイエス様!我々を罪から贖い救うために、そして、我々とともにおられるために人間の体を持ってこの地に来られたあなた様に心から感謝し、迎え入れます。くすしい、神様の愛の御業の前で我々は言葉も失い、ただ、主にひざまずき、主をほめたたえるだけです。

今日ヨセフのように神を愛する者が混乱の中に助けが必要な人をかえりみ助ける者とならせて下さい、どうしても理解出来ない状況や環境の中でも神の御言葉のみを信じ、従うことにより、御言葉の約束と祝福を体験する者とさせて下さい。

我々にたずねて来られたイエスキリストと共に今日からクリスマスアドベント4週間、そして、人生の残りの日々、命の日の限り、イエスキリストとその御言葉ととどまり、日々歩み続ける全クリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族となりますように、救い主なるイエスキリストの御名によってお祈り申し上げます。” アーメン！

